

勿凝学問 364

チキンゲームの行方と日本の国難と総理禅譲

2011年2月28日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

2月23日の話。

もう、ぐちゃぐちゃだな。

[予算関連法案—国民益を考え、歩み寄れ](#) asahi.com

特例公債法案について野党は「年度内に成立しなくても大事にならない」としているが、この法案が成立しなければ、新年度予算92兆円のうち、40兆円余りの財源の裏付けがなくなる。その影響は社会保障や教育、地方財政などに広く及び、被害は甚大だ。

ところが、当の与党の政調会長が、特例公債法案の年度内成立にこだわらないと言ってしまう。

玄葉氏は20日のNHK番組で、公債法案が年度内に成立しない場合に関し「6月までは税収見込みで（予算執行に対応）できる」と発言。

このチキンゲーム、どうなることやら。

「[日本の社会保障と財政](#)」『世界の労働』2011年1月号（第61巻第1号）

2011年1月6日脱稿

さて、八つあんの立場としては、熊さんへの報復に血道を上げすぎると、今度は自分が国民から批判されてしまう。熊さんもそこを見こして八つあんにゆさぶりをかけるつもりでいる。さてさて、来年度予算、国民の生活を人質にしたチキンゲームのお膳立てができたところで、2011年が幕開けとなった。

やらなければならないことは消費税をはじめとした増税——当の昔から決まっているのに、それを誰も実行できない。財源で大ウソをついて政権を奪い、この国を正しい政策にたどり着かせるのに大きく遠回りさせてしまったのみならず、この国の傷口を広げてしまった熊さんの罪は深い。ところが、今は、「熊

さんの政治主導はまやかした、俺さまがやればまだまだムダを絞り出すことができる」という与太郎というのが出てきて国民の人気を博している。国民というのはまったく困ったものなのであるが、数年前に、この困った国民につけこんだ熊さんの登場の後遺症のために、この国では、まず、政治が破綻し、政治は八方塞がりの状態に陥ってしまった。この政治の破綻を引き金にして、次に社会保障が、そして財政と国民生活の全般が破綻するという破綻連鎖が起こるのか、それとも破綻連鎖を阻止するために、社会の最も根源的かつ影響力のある位置にいる政界がなんらかの自浄作用をみせるのか——2011年の新年を迎えたい今、この国は混沌の中にある。

まあ、僕は、総理禅譲が、最も早く政治を正常な軌道に戻す方法だと考えている。マーケットからみても、これだと特例公債法の成立、税制改革の実行可能性に期待をよせるんじゃないのかい。それに、これでダメなら諦めもつくってもんだろ——不幸への予想を最小にするという意味で、最小不幸社会を目指す策というわけだ。それにこの「谷垣さんに人事権を禅譲して、与野党から人材を集めた救国内閣を作る」という策は、実現の難しさがスパイスとなって、けっこうワクワク感を高揚するものがあるだろう（笑）。

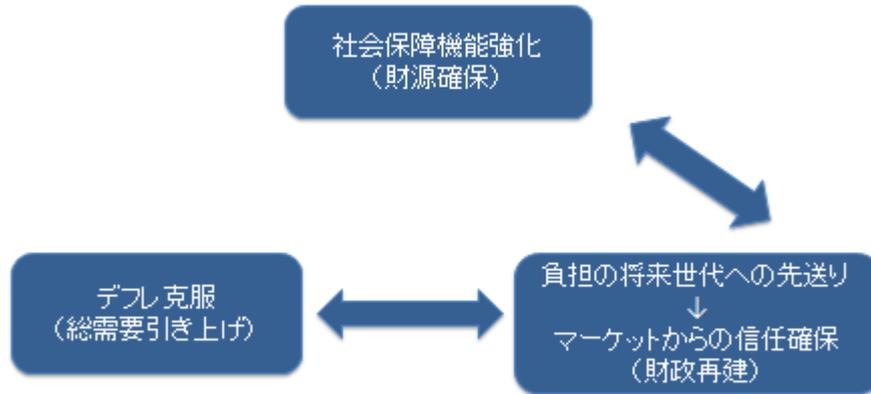
でも、このまま、ニッポンは宰相不幸社会になったりしてな。。。

凝学問 358 [大切なことは、与野党が協力して国難に臨むのはどのルートが一番早いかなど？——党首討論をめぐる報道を観察して思うこと](#)

解散なしのぎりぎりのラインというのは、谷垣総理、菅副総理のもとでの税制改革の実行だろうな。政界が壊れ行き詰まった今、総選挙を行うとすれば懸念されるリスクからこの国を守るために、総理が与謝野さんに行くとされる三顧の礼を谷垣さんにもあって良いと思う。そしてその方が、解散よりもベターだと思う。谷垣さんに人事権を禅譲して、与野党から人材を集めた救国内閣を作るくらいのことをしないと、あの詐欺選挙で壊された政界は機能しはじめないんじゃないのかい。

とにかく、授業でも、他でも次の図で説明しているように、この国は、大変なんだよ。与党側から「マニフェストの破綻などという言葉は、あてはまらない」とか「高速道路無料化につきましては・・・」なんて話を聴いている暇はないわけだ。

日本の国難



38

Keio University Y Kenjoh

ご参考までに。

- 「[政界と税と社会保障](#)」 『週刊東洋経済』 2011年1月1日号

2月22日のHPへの書き込み。

昨日は昼食の時に、「落とし所のない戦略」と、やっぱり政治の話で盛り上がりました（空しいけれど）。

徒に時が過ぎ、与太郎が体制を整えた結果、総選挙で再び振り出しに戻る、否、次回は、この国は木っ端微塵かな・・・こういうのは落とし所とは言わないか（笑）。

総理は、今、解散しても、その後の政局がどうなるか誰も分からない。長年積み残してきた課題をさらに先送りすることになるから解散をしないと言う。

そして、消費税を上げる際には、解散総選挙をして国民に信を問うという。

この二つの発言の関係、どこがおかしいと思う（笑） > ALL

ところで、次、君はどっち派？

- 「[減税日本とはしゃぐより...](#)」与謝野氏が河村市長批判 asahi.com

なお、今興じられているチキンゲーム、日本の文化のもとでは、首相が、これでもかというほどに低姿勢低姿勢に出て、それでも野党が協議にのらない姿を、判官鼻肩の国民がみてはじめて、与党に勝算がでてくると思うんだけど、あの首相は、ケンカの仕方をなんか勘違いしているね。予算が執行できないのはみんな野党のせいだ！と「居丈高」に言ってしまったら、日本人の感情は離れるだろう、そりゃ。

政治家さん達はその仕事の重要性から考えて、僕よりもはるかに寛大でないと困るんだけど、僕は「歴史に対する反逆行為」発言一つで、彼には協力しないと決めるんだよね。それが、2月5日の書き込みになる。

> お断りされたんですね。

ああ、歴史に対する反逆者第1号にでもなってみようかと思ってね。

今日の新潟での講演——卒業生のご両親がフロアーに。そこで、持参していた次の資料の最後の文章を、途中で読み上げる。

2010年1月20日脱稿

「[経済成長と医療政策、これを議論する前提としての国家財政の持続可能性](#)」『日本医師会 医療政策会議報告書』所収

大学で教育にも携わっている私が、手段を選ばぬ卑怯な者勝ちの生き方を推奨していると学生に受け止められかねない、「約束を反故にするように」ということを彼ら現政権に言うはずがない。

約束は守れ。はじめから出来もしない話で国民を騙していたのだから、政府与党の面々は権力の座を降りろ。

谷垣さんが[代表質問](#)で言ったように、「憲政史上最大の確信犯的な公約違反」であることは明らかなんだからな。

今起こっていることは、まっ、こういうことだ。

1月6日脱稿

『世界の労働』

さて熊さん。勝ってはしまったが、財源なんかあるわけがない。そこで困った熊さんたち——「大ウソをつきました」と土下座をすると、それでは、この前の選挙の正当性が失われ、あの選挙は無効だ、辞職しろ、解散だという流れになる

に決まっている。要するに、政権の正統性そのものが揺るがされることになる。ゆえにそれだけは避けなければならない。そこで、ウソにウソの上塗りをしながら、土下座を避けて方向転換をする道を模索していたのが昨年後半の動きである。しかしながら、その道を模索すると言っても、困ったことがある。それは、こと社会保障と財政が進むべき選択肢というものは、実は2008年から2009年にかけて八つぁんが敷いていた道しかないのである。そこで熊さんたちは、大芝居——あたかも自分たちで考え抜いてたどり着いた案が、八つぁん案と同じだったということになるためのアリバイ工作という茶番劇に精を出すことになる。